

令和 5年 6月 19日

浜田市議会議長

後田 亨 様

議員名 牛 尾 昭

### 調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

#### 記

1. 期 間 令和 5年 6月 6 日 (火) : ~ :

2. 研修内容

目指そう！わが町のスマート・テロワールに

3. 研 修 先

スマート・テロワール協会

4. 調査経費

1,000 円

(経費内訳

1,000 円、 〇 円 )

5. 調査研究活動の概要

別紙にて。



研修先：スマート・テロワール協会。

目的「目指そう！わが町をスマート・テロワールに」

日本農業は、こう変わる！～山口からのスマート・テロワール実践論

講師：浅川芳裕氏、農業戦略コンサルタント。

期間、令和5年6月6日、オンライン研修会。

司会・進行：藻谷浩介氏。

例によって、藻谷浩介氏が、講師紹介をする。浅川氏は、海外を飛び歩く商社マンであったが、山口県の故山本知事の招聘で赴任したが、知事急逝のため解雇、のちに山口市のアドバイザーに就任する。

浅川氏講演要旨：日本は世界第五位の農業大国である。「山口県の農業」の市場トレンドは、青果と畜産の成長が見込まれるが、米は飽和状態である。畑作＝大豆、小麦、野菜、畜産があるが新規参入のポテンシャルは高い。勝てる市場で勝負～「米、麦、大豆」市場は、旧来の農政領域なので避ける。

山口県の需要は、100をベースとすれば、米が135、野菜が19、トウモロコシの消費は米の2.6倍、畜産農家の

飼料代は10億円かかっている。市内103軒の農家に聞くと、61%の農家がトウモロコシを買うと答える。農家の生産構造が県民の消費選択の現実に即していない。

～旧来の農政ヒエラルキーからの転換～

～転換後の価値ピラミッド～

(消費者の関心) ー農・食・健康ー美食ー (スマート・テロワールの世界)

戦略：地元道の駅を活かす。

生産者ー道の駅ー販売者 (スーパー) ー消費者

～2020年度実証実験開始～

\*道の駅から野菜がやってくる。初年度、300万円。現在は、4000万円。当初は、農家が野菜を運んだが、現在はスーパーが集荷する。客は地物とおもう。

\*トウモロコシ成長の背景

作業時間：米作の10%である。

～課題を克服する戦略立案～次世代の人材育成～

ポイントは、子供の頃から (幼稚園・小学校) 農業にふれることが必要である。野菜は、山口でも、成長可能である。

中田会長のまとめ

スマート・テロワールというキーワードは？故松尾さん（カルビーの会長）が提唱者です。浅川講師はそれにプラスでしゃべった。耕畜連携—モロコシ・小麦・大豆の連作を目指す。考察、お隣の山口県の例は非常に参考になった。まず第一は、世界的に高騰しているトウモロコシの生産である。作業時間が米作に比べて10%、次に、耕作放棄地のトウモロコシ栽培が有望である。浜田市の参考になる。

以上報告します。牛尾昭。